

QUALIFYING NEWS FLASH



Round

6

予選速報

2009 全日本選手権フォーミュラ・ニッポン 第6戦 2009年8月9日(日) ツインリンクもてぎ

www.f-nippon.co.jp

発行人/編集人:
株式会社 日本レースプロモーション
〒102-0047 東京都千代田区九段南2-3-25

Series Partner

BRIDGESTONE

HONDA

TOYOTA

Series Supporter

NIKKI-ICHI
総 人気酒造

Take Free

ご自由におとりください

小暮卓史がもてぎで連続ポールポジションを奪取!!

2戦連続のNAKAJIMA RACINGの予選1-2!

塚越広大(HFDP RACING)は4位に。



8月8日(土)、全日本選手権フォーミュラ・ニッポン第6戦の予選がツインリンクもてぎ(栃木県)で行なわれ、No.32 小暮卓史(NAKAJIMA RACING)がもてぎでの連続ポールポジションを獲得。地元・栃木県の今市出身のルーキー、No.10 塚越広大(HFDP RACING)は予選4位となった。

NAKAJIMA RACINGに石浦が食い下がる

予選開始は午後2時20分。20分間のQ1が開始すると、全車がユーズドタイヤでコースイン。ここで早くも1分34秒台に入れてきたのは、No.32 小暮卓史とNo.31 ロイク・デュバルのNAKAJIMA RACINGコンビ。他のドライバーはピットに入り、ニュータイヤ装着の時間を待つ。セッションが残り10分となり、数台のマシンがフロントのみニュータイヤを装着。スクラブ(タイヤの慣らし)を終えて、コースに戻る。その他のマシンも残り時間が7分ぐらいたったところから4輪ともにニュータイヤを装着してコースへと出た。スクラブ組も残り5分を切ったあたり



からコースイン、アタックに入る。一方、小暮はユーズドタイヤでマシンの状態を確認しただけ。トップタイムを出していたデュバルはコースに入らなかった。しかも、他のドライバーはニュータイヤでのアタックでも、NAKAJIMAの2人がユーズドでマークしたタイムを上回れなかった。ここで3番手につけたのは、No.8 石浦宏明(Team LeMans)。Q2進出を逃したのは、No.41 伊沢拓也(DOCOMO DANDELION)とNo.40 リチャード・ライアン(DOCOMO DANDELION)だった。

午後2時50分から10分間のQ2が開始すると6台のマシンがコースイン。うち5台はフロントタイヤのみをスクラブしてピットイン。Q1でトップタイムだったデュバルだけは、そのままタイムアタックを行い、1分34秒388を叩き出す。続いて石浦が1分34秒台のタイムをマーク。これを上回ったのは小暮だ。小暮は1分34秒296でトップに立った。一方、ここでQ3進出を逃したのは、No.48 立川祐路(CERUMO/INGING)、No.7 国本京佑(Team LeMans)、No.20 平手晃平(AHEAD IMPUL)だった。

デュバルの3戦連続ポールは僚友に止められる

Q3が始まったのは、午後3時10分。このセッションも10分間だけに、開始と同時に4台のマシンがコースイン。うち3台はフロントタイヤのスクラブを行なった。セッション開始3分過ぎたところから、4輪ともニュータイヤを装着したドライバーたちがコースイン。

その約3分後には、フロントタイヤをスクラブしたドライバーたちがコースに入り、チェッカー目前に小暮がこの日唯一、1分33秒979と33秒台の快走でトップに立つ。デュバルも自己ベストを叩き出すが、1分34秒112とわずかに及ばなかった。これに続いたのは、アタック1周目にNo.1 松田次生(LAWSON IMPUL)に引っかけってしまった石浦。以下、塚越、No.36 アンドレ・ロッチャーとNo.37 大嶋和也(共にPETRONAS TOM'S)、インターバルでのセット変更が裏目に出たNo.2 プノワトトレイエ(LAWSON IMPUL)、松田という結果になっている。





Pole Position: 小暮 卓史 NAKAJIMA RACING / #32

決勝は自分のペースでどんどん引き離していきたい

今回は、チームメイトのロイック選手が走り出しからすごく速くて。僕の方は、いくらセットを変えてもなかなか良くならない。それで予選は通常のセッティングにしてやったら、ロイックと同じようなタイムが出て。いい走りができたと思います。クルマの基本セットがこのコースに向いているんじゃないのかなというのすごく感じますし、

自分自身も前回ポールを獲得しているので、自信を持っているというのもありました。

決勝はスタートから、鈴鹿と同じように自分のペースでどんどん後続を引き離して、いいレースをしたいと思っています。とにかくスタートが一番ポイントになるので、集中して行きたいですね。



2nd: ロイック・デュバル NAKAJIMA RACING / #31

クルマの戦闘力がとても高い予選だった

とてもいい予選だった。クルマの戦闘力はとても高かった。小暮さんとのタイム差も僅かだったし。予選ではアタックの時に、タイヤが温まり切っていないでコンマ1秒ほどロスしてしまって。前回のもてぎは最悪なレースをして、ノーポイントに終わった。だから、勝つためにがんばるつもりだ。小暮さんもすごく速いし、2人で争うことになると思うけど、その結果2位で終わっても、それはそれで満足できる結果だと思う。



32 小暮 卓史
NAKAJIMA RACING
Quality 1: 1'34.839
Quality 2: 1'34.295
Quality 3: 1'33.979

PP



3 8 石浦 宏明
Team LeMans
Quality 1: 1'35.063
Quality 2: 1'34.747
Quality 3: 1'34.798



36 A. ロッテラー
PETRONAS TEAM
Quality 1: 1'35.927
Quality 2: 1'35.107
Quality 3: 1'34.964

5



2 31 L. デュバル
NAKAJIMA RACING
Quality 1: 1'34.824
Quality 2: 1'34.388
Quality 3: 1'34.112



4 10 塚越 広大
HFDP RACING
Quality 1: 1'35.522
Quality 2: 1'35.169
Quality 3: 1'34.930

Starting Grid
Race start: 14:30

タイムスケジュール (決勝日)

8:35	FCJ Round12 決勝(18周)
9:35 >> 10:05	Formula NIPPONフリー走行
10:15 >> 10:30	サーキットサファリ
10:55	S-FJ/FJ1600 決勝(10周)
11:30 >> 12:00	ピットウォーク
12:45	F3 Round12 決勝(20周)
14:30	Formula NIPPON 第6戦決勝(52周)

Weather
本日の天気予報 (ツイリンクもてぎ)
Yahoo!天気情報 2009年8月8日 18時30分発表

時間	9:00	12:00	15:00	18:00	21:00
天気	曇り	弱雨	曇り	曇り	曇り
℃	25	27	29	26	25

Pit Assignment

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33		
*	*	*	1/2	*	20	*	48	31/32	36/37	*	*	7/8	*	*	*	40/41	*	10																

◀ First Corner ▶ Pit Road

Round 6 MOTEGI Race Preview - 第6戦決勝レースの見どころ -
多面的な対決図式が展開する第6戦もてぎ
あなたはどの局面に注目するのか?!

この第6戦は予選から今季の特徴である多面的な対決構造が現れていた。まず、チーム内の対決。現在、絶好調のNAKAJIMA RACINGのデュバルと小暮はもちろん、PETRONAS TOM'Sのロッテラーと大嶋(写真)も、各セッションで互いの順位が入れ替わり緊張感ある状況となっている。そして、若手とベテラン。今回の予選トップ6には、ルーキーと2年目の3人が割り込んでおり、いつ下克上が起こっても不思議はない。前回の第3

戦もてぎでは、ドライブが塚越がトップの小暮を抜き大いに湧いた。石浦はいつ勝っても不思議ではない。もちろん、NAKAJIMA RACING対LAWSON IMPULの対決もある。あなたなりの対決図式を見いだし、観戦もひと味違うのではないだろうか?

さて、決勝レースだが、天気予報では曇り。だが、通り雨の可能性は十分ある。そうなれば、5月の第3戦のように目まぐるしい展開もありうる。その時のためにも、スタートでできる限り



前に出て、レースの主導権を握ることが最重要だ。スタート、そして1周目。まずは、そこでの爆発力、駆け引きに注目だ。

Too early to write the...



3rd: 石浦 宏明 Team LeMans / #8

決勝に向けてももっとチャレンジします

今回はトップを追いかけようと、色々な部分を変えてきたんです。確実に良くなっているという手応えはあるんですけど、大きな差があるので、予選ではさらに大きなセット変更をして、それもいい方向にいきました。でも、なかなか差を詰められず悔しい予選でしたね。でも、最近では確実にこの位置にはつけているので、決勝の朝に向けてももっとチャレンジして、前とのタイム差を詰めたいと思っています。



4th: 塚越 広大 HFDP RACING / #10

ベストを尽くして、なんとか4番手に

今回は、走りながら色々調整しました。なんとかまとめて、Q3でようやく4番手になりました。ベストは尽くしたけれど、納得はしてません。予定どおりメニューをこなしたのに、思ったほどフィーリングを得られなくて。今回はアジャストが難しい状態です。まだ僕自身がクルマの特性をつかみ切れていない部分があって、試行錯誤が続いています。(地元なので)決勝日は知り合いもたくさん来るし、いいところを見せたいです。



5th: アンドレ・ロッターレ PETRONAS TEAM TOM'S / #36

予選は、ある意味“生き残った”って感じ(苦笑)

まずフリー走行で今までとまったく違うことや新しいことにトライしたんだ。今年テストの機会がないからね。でも新しいことを試すにはリスクが伴う。結果として、今日は方向性としてあまりいい方向じゃなかった。だから、予選ではセットアップを元に戻すことになって、朝とはまた違う状態になっていったんだ。少しずつ戻していって、最終的に元に戻ることができてよかったね。それが5番手のポジションだったってことだよ。

final phase down. Something must happen at Motegi.

シリーズは終盤戦に突入! 早くも訪れた天王山。難コースもてぎで何かが起こる!!



2 B.トレイエ LAWSON TEAM IMPUL
Quality 1: 1'35.945
Quality 2: 1'35.004
Quality 3: 1'35.067

7



48 立川 祐路 CERUMO/INGING
Quality 1: 1'35.767
Quality 2: 1'35.367
Quality 3: -

9



20 平手 晃平 ahead TEAM IMPUL
Quality 1: 1'35.552
Quality 2: 1'35.520
Quality 3: -

11



40 R.ライアン DOCOMO TEAM DANDELION RACING
Quality 1: 1'36.182
Quality 2: -
Quality 3: -

13



6 大嶋 和也 PETRONAS TEAM TOM'S
Quality 1: 1'35.478
Quality 2: 1'35.106
Quality 3: 1'34.995



8 松田 次生 LAWSON TEAM IMPUL
Quality 1: 1'35.189
Quality 2: 1'34.887
Quality 3: 1'35.120



10 国本 京佑 Team LeMans
Quality 1: 1'35.627
Quality 2: 1'35.487
Quality 3: -



12 伊沢 拓也 DOCOMO TEAM DANDELION RACING
Quality 1: 1'35.984
Quality 2: -
Quality 3: -

予選日: 2009年8月8日(土)
天候: 曇
路面: ドライ
予選通過: 1'41.462 : 01/107%

Round 6 MOTEGI TOPIC

決勝で逆襲を狙うIMPUL勢。決勝ではとにかく追い上げるのみ!

結果的に予選では7、8番手と奮わなかったLAWSON IMPULの松田次生(写真・左)とブノワ・トレイエ(同・右)。だが、Q1、Q2で松田は4番手に食い込んでおり、Q3では狙いすぎた結果という。それだけに決勝でスタートを決めれば、NAKAJIMA RACING勢に割り込むこともありえる。松田は「Q3で少し欲をかけたのが裏目に出ました。(前回負傷した)指は走りに集中していると痛みも感じません。それよりもクルマのほうが今は重症。決勝はとにかく追い上げるのみです!」とケガより、マシンの方が心配のようだ。

そして、天候が荒れてマシンの戦闘力差が少なくなれば、第5戦鈴鹿のトレイエのように快進撃も…。トレイエは「レースはスタートが大事になる。自信はあるよ。雨もいいかな(笑)。前回(鈴鹿)はすごくいいスタートを切れたので、ああいう展開になればいいね」と決勝に自信をのぞかせた。

そして、もう1人。Q3進出を今年初めて逃したahead TEAM IMPULの平手晃平。しかし「走っていて、コンスタントにいいタイ



ムが出ていたので、レースには強そうなセットだということはわかっています。そのいい方向をさらに伸ばしていけば。予選結果は残念ですが、決勝は粘っていきますよ」と、決勝での巻き返しを誓っていた。

